

本時のねらい

- ・ビジョントレーニングを通して、空間把握の力や、集中力を高める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・電子黒板を使用することで、定点から広い視野を意識させることができる。
- ・電子黒板のペンツールを使用し、見つけた数字を消していくことで、誤認を防がせながら、生徒に達成感を感じさせる。
- ・振り返りの活動を共有のスプレッドシートで行うことで、他の生徒と達成感を共有することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook ・Chromecast ・電子黒板 ・スプレッドシート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (3分)	○本時の活動を確認し、本時の活動が活動全体のどのあたりなのか、視覚的に示す。 ○ ビジョントレーニングのルール確認を行う。	
展開 (30分)	○ ビジョントレーニング初級に取り組む。 【写真 1】 ○ ビジョントレーニング中級に取り組む。 【写真 2】	・電子黒板にランダムに書かれた数字の画像を表示する。 ・できるだけ視点を変えずに、数字を探すよう助言する。
まとめ (18分)	○取り組みの結果を共有のスプレッドシートに記録し、記録が伸びた理由などを話し合う。 【写真 3】	・自分の秒数を記入する。その際、前回の記録との比較をさせ、なぜ早くできたかの振り返りを行わせる。 ・他の生徒の記録を共有しておき、互いの記録を意識させながら活動させる。

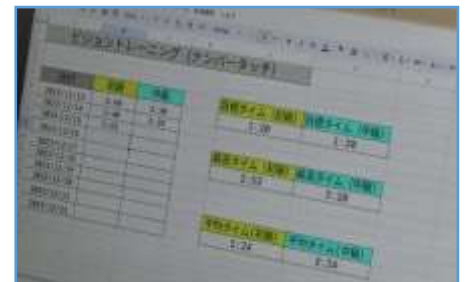
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】ビジョントレーニング初級に取り組む様子。



【写真 2】ビジョントレーニング中級に取り組む様子。



【写真 3】活動の振り返りとして共有のスプレッドシートに入力している様子。

児童生徒の反応や変容

- ・日頃から 1 人 1 台端末や大型モニターを使用していることから、操作方法に慣れており、授業をスムーズに行うことができた。
- ・タイムを計測しスプレッドシートで互いの記録を共有することで、成長をみんなで実感できており、生徒のやる気の向上につながった。
- ・生徒自身が「集中して取り組んでいたときの方がタイムが上がる。」という事実に気付き、自分の傾向を分析することができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・授業開始時にタブレットなどの端末を活用することで、生徒の気持ちを授業へ向けやすいと感じた。
- ・共有スプレッドシートを活用することで、個人の成長だけでなく、他の生徒の成長も確認することができ、みんなで達成感を共有することができる。
- ・電子黒板を使うことで、数字を消す作業が容易である。また表示画面が大きいため、視野を広げないと課題を達成できない。これらの点で、電子黒板の有用性を生かすことができた。